

(様式1)

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを 支えていくサービスとして、事業所独自の理念 をつくりあげている	概念的なものではなく、日常使う平易な言葉でわ かり易いものを掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践 に向けて日々取り組んでいる	理念はスタッフ全員で、色々案を出し話し合っ て決めた。玄関と事務所に掲示し目に触れやす いようにしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続ける ことを大切にしたい理念を、家族や地域の人々 に理解してもらえよう取り組んでいる	面会に来られるご家族や、外来の方々にも分 かりやすい玄関に掲示している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をか け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるよう な日常的なつきあいができるように努めている	近所の方々とは、日常的に顔を合わせる機会が あり、時候の挨拶や、趣味（ガーデニング等） 等で会話を交わしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に参 加し、地元の人々と交流することに努めている	地元お寺さんに依る、月に一度の説法、運営推 進会議の開催による地域の方との交流、地域 に出かけての交流は少ないが、それなりに努 めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入所希望のご相談に訪れるご家族に、ホームの説明や入所希望者の状況や、他の介護施設の説明、紹介等している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理念を念頭に日々、ケアしているつもりであるが立ち止まり振り返ると、欠落している部分に気づく時がある。個々において気づいた人がアドバイス、あるいはミーティングにて提案している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部よりの疑問点、指摘事項あれば真摯に賜りスタッフへの伝達を行いサービス向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当窓口、福祉事務所等定期的に訪問、情報交換に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ミーティングを開催し、その中で権利擁護について学ぶ機会を作って話し合っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、往々にして身体の拘束のみをイメージするケースが多いが、言葉による心理的な抑制、薬物に依る行動の抑制等、広範にわたることを理解し、利用者の人権・人格を侵害することの無いよう拘束委員会等で学んでいく。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、二人以上の職員により説明漏れ等無いよう、又疑問点の質問などし易い雰囲気作りに努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は不満があるにしても、うまく表現できない方が多いので、日常のケアの中で心を配り、あるいは何らかのサインを見逃さないよう努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料納付のお知らせする時に、ホーム内での出来事、お小遣いの収支細かにお知らせしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の窓口は設けているものの、家族としてはなかなか申し出しにくいだろうと考える。面会時のさりげない会話の中にそういった事が含まれていないか、スタッフは常にアンテナの感度を上げるよう努める。意見があった場合個人記録に残すと共に改善できる点は即対応するように努めている。	○ 表立った苦情が無いことに慢心することなく自問自答皆問皆答で振り返る。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、あるいはミーティングにおいて意見は吸収し対応できる部分は、即反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟に対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	配慮している。ここ1年間異動、離職なし。	○	なじみのスタッフによるケアの効果は、実感しているので、今後も離職者のないよう働きやすい職場づくりに努めて行きたい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制上日勤での研修会参加はなかなか難しいが、参加料、交通費等は配慮している。	○	近場で開催される研修への参加を進める。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者との交流により、学ぶべきところを生かし、レベルアップを図るよう努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営面において細かい指示等なく職員の自主的な取り組みを尊重している。職員同士活発な意見交換でストレスの鬱積がないよう期待している。	○	懇親会等開き、さらなる意見交換をしたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	希望があれば、各種資格取得に可能な限り便宜を図るようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	努めてコミュニケーションをとり、不安を解消できるように受け止める努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	説明の途中でも疑問点や不安なことはないか、度々こちらから聞くようにして説明を進めるようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容によっては、居宅介護支援事業所を通じて他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要があり協力が得られれば、家族の宿泊や頻繁の面会など行い、雰囲気に徐々に馴染めるように支援していく。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	協同の作業を通じて、入居者の知恵に学び、逆に励まされる場合もある。	○	協同の作業の場面を増やし喜怒哀楽を分かち合う場面を増やす。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事などを通じ、情報の共有を図り同一の視点で本人を支えていく努力をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	折にふれ本人と家族の関係の理解に努め、外出・泊をすすめ良好な関係が継続するように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帰宅欲求や本人からの要求、日常会話の中でそういった雰囲気を感じられたら、機会を見て家族にお話したり、状態に合わせてできる限り支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係に配慮し、食堂でのいすの配置、レクリエーション時の座る位置など職員が調整役として心配りしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在までの当所の退居者は、入院の方が殆どなので、折に触れ病院に見舞ったり様子を伺い家族とも会話を交わしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のケアのなかでおのずと現れる意向や希望はできるだけ汲み取れるようにしている。また感情の表出が困難な方は、過去の生活歴や、家族からのお話を通して対応している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方がこれまで生業としてきた事を努めて話題にして話し掛けたり、不明な点は、家族あるいは受け持ちであったケアマネより情報を入れたりして、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人にそれまでの生活習慣があるので、努めてそれを尊重し、意向に沿うよう努力している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向は日常生活、会話を通じてあるいは直接的に伺い介護計画に反映できるよう努めている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一定期間ごとに見直しを行い、期間中に状態の変化があれば、申し送り、ミーティングを通じ、それに即した変更、修正を行う。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録用紙があり、毎日の自・他覚的な体調の記録、ケアの実践、気づき、工夫等記入し見直しに生かしている。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族よりの要望等あれば、できる範囲で柔軟な対応をしている。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のお寺さんに来てもらい、説法や希望があれば入居者さんのつれあい、身内の方の法要もしてもらっている。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要があれば、他施設他・事業所との話し合い、連携できる体制がある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今後、権利擁護に関する問題等発生したら、協働できる体制を構築しておく。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の同意のもと、かかりつけ医療機関と良好な関係にあり、送迎・往診により適切な医療を受けられるように支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者各人の認知症の進行度合いにより、家族ともども専門医の受診を支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関による定期受診により、本人・職員共に気さくに言葉を交わせる環境にある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院になった場合、時間の許す限り面会に行き、言葉を交わすようにしている。その際病院関係者と情報交換や相談を行い、早期退院に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制により重度化や終末期に向けた方針は確認しているが、現在まで事例がない為、現実的な対応には不安が残る。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族の意見、かかりつけ医、事業所として「できること・できないこと」を見極める努力をする。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	住み替え先に本人の情報を提供し、直接出かけたり 電話での情報交換など、最小のダメージに抑え る努力をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> <b>1. その人らしい暮らしの支援</b> <b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない</p>	日常生活の中で、出来る作業の手伝いをもらい、 終わったら感謝の言葉でねぎらい本人に達成感、 満足感を感じもらうようにしている。個人情報に 関しては最新の注意を払うよう心がけ、判断がつか ない場合は、お互いに相談しあうようにしてい る。	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、 わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる</p>	生活の中での何気ない会話、或いは意図した会話 (質問)を行い、本人の思いや希望がどこにある かを察知する努力をしている。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている</p>	一日の流れは決まっているが、その人の希望や思 いがあれば、可能な限り柔軟に対応している。	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行け るように努めている</p>	本人や、ご家族の要望を最優先に対応している。	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている</p>	季節に応じた食材の使用を心がけ、四季を感じて もらうよう努めている。又年間行事食を設定し、	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が好む物があれば、そのように対処している。逆に嫌いな食べ物（食事の場合）があれば、それに代わるものを用意している。	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターン、習慣を把握し日々の変化を順次申し送り、最適な支援ができるよう努めている。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	既定の入浴日課があるが、希望があれば順番や日程の入れ替えを行っている。全員、介助が必要なため入浴がコミュニケーションにも役立っている。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠が得られるように体調にも考慮しながら、日中の活動と休息をバランス良く取れるよう支援している。	
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴などを参考に以前の経験を生かし、本人の得意な事や、興味のある事ができるように支援している。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで管理しているが、ホーム内での購買時（週1回ヤクルト購入）財布を渡しおつりのやり取りをしてもらっている。	


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	当日の天気や、体調などを勘案し散歩やドライブをできるように努めている。定期の診察日にコースを変えたりして、四季の移ろいを感じてもらうこともしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望を伺い、家族の同意も貰っておき可能な日に自宅まで言ったりしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い等、本人の直筆を一文字でも入れて家族が少しでも親しみが湧くよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも自由に訪問できるよう雰囲気作りに努めている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はこれまで例が無い、工夫をこらせば身体拘束の必要は限りなく低減できると全員が理解している。薬物、配慮を欠いた会話が精神的な拘束に繋がらないように気をつけるようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	二ヶ所の出入り口があり裏口のほうは、施錠している。玄関に関しては、無施錠であるがセンサーにより無断の外出に気づくようにしている。(当ホームは緩衝エリアが無く、交通量の多い県道に直接面している) 帰宅願望等が強いときは、それとなく連れ添って散歩等している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フロアで過ごされることが多いので、食事の支度、記録等しながら把握に努めている。フロアに見えない方については、トイレの誘導、適宜の巡回を行い安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	誤飲・誤嚥の恐れのある各種の洗剤、消毒液などは保管庫に施錠している。夜勤帯はキッチンの包丁等施錠できるようにしてある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの能力に応じた援助を行い、変化は申し送りミーティング等で情報の共有に努めている。ヒヤリハット、事故報告書を検討し事故防止の対策に役立てている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応は知識としては持っているが、実践の経験が少ないか皆無の為、その場で対応できるか不安である。	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近所の方々には、万一の場合駆けつけてもらえるように協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会時、折に触れ話題に取り上げている。又ヒヤリハット、事故報告の際今後起こりえる事態も交えてお話ししている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定、言動などを観察し必要であれば速やかに受診し、早期の対応に結び付けている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬、服薬確認は職員が行っている。各自が服用している薬の作用、副作用の理解にもっと努めたい。	○ 服用薬の一覧表を作成してみる。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の工夫や、体を動かす事に努めている。排便のチェックを行い、Drの指示を得て緩下剤の与薬を調整している。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの支援を一人ひとりに行い清潔保持を支援している。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	シニア世代の食事について栄養士よりアドバイスをもらいそれを生かすよう努めている。食事と水分の摂取量は細かく記録している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	食材の適切な保管、手洗いの徹底、皮膚状態の観察、ワクチンの接種等励行している。	○ 日々の業務の中で関心がおろそかにならないよう、注意する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は原則冷蔵庫保存とし、消費期限に沿って使用している。保存が長期にならないよう、まめに買出しに行くようにしている。(週に3回)		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	小さい花壇(菜園)であるが、常に緑があるよう心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整然とした中に、家庭的な雰囲気が出せる小物を飾ったり四季を感じられるような物を置いて、居心地良く過ごせるよう努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いスペースであるが、玄関に長椅子を置いて、談話ができるようにしてある。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	病院、施設から入居された方が多かった故に、長年使い慣れ親しんだ家具等持ち込まれた方は少ない。しかし購入された新しい家具も時間の経過と共に、今ではそれぞれが使い慣れた物になりつつある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレ等は換気扇により24時間換気されている。空気のよどみがないように、気候、気温等考慮しつつあらゆる窓の開放により空気の入れ替えを図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活を送れる ように工夫している	ホーム内は段差が無く、要所には手すり等設置し てあり、できるだけ自立した生活を送れるようし てある。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	手洗いの鏡にカーテンを付けたり。各自の部屋、 トイレなど目印をつけている。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	花壇に季節の花や野菜を植えて、入居者と一緒 に簡単な手入れや、水やり、鑑賞、試食等色々 楽しんでいます。	

(  部分は外部評価との共通評価項目です )